

# 第 24 回 障害者歯科学会

平成 19 年 11 月 24 日～25 日 長崎ブリックホール・長崎新聞文化ホール

## 当センターでの摂食嚥下機能訓練の実際

○高田 靖<sup>1)</sup>・芳賀 定<sup>2)</sup>・中島 陽州<sup>1)</sup>・  
山岸 春美<sup>3)</sup>・藤田 まどか<sup>3)</sup>・廣田 裕子<sup>3)</sup>

<sup>1)</sup> 社団法人・東京都豊島区歯科医師会, <sup>2)</sup> 芳賀デンタルクリニック,

<sup>3)</sup> 豊島区口腔保健センター・「あぜりあ歯科診療所」

## 緒 言

東京都豊島区では平成 11 年 4 月に豊島区口腔保健センター「あぜりあ歯科診療所」を開設し、寝たきり高齢者を搬送しての診療や一般の歯科診療所では十分な歯科治療を受けることが困難な障害者に対して身近なところで本格的な歯科治療を提供できるような体制づくりを行ってきた。平成 14 年 4 月より摂食嚥下機能障害者を対象にした専門外来を月に 1 度（第 3 火曜日）開設し、指導医のもと豊島区歯科医師会の会員が協力医として担当医制をとるようにして歯科診療に携わっている。また、診療の前 1 時間を使って外部からの参加者も募った勉強会を 12 回シリーズにて 1 年ごとにカリキュラムを作成して行なったり、障害児施設への訪問指導・訓練等を行っている。そこで今回、我々は摂食嚥下機能訓練外来が開設されてからの 5 年間の診療実績等についての検討を行った。

## 対象と方法

平成 14 年 4 月より平成 19 年 3 月までに当センターを受診した患者を対象に調査し、基礎疾患や診療内容等について専門指導医を中心として判定評価を行った。

## 結 果

年度別初診患者数を表 1 に示した。発達期障害者 15 名、中途障害者 11 名、計 26 名であった。

表 1 年度別初診患者数

	H.14 年	H.15 年	H.16 年	H.17 年	H.18 年
発達期	3	1	5	3	3
中 途	6	3	0	0	2
合 計	9	4	5	3	5

比率としては発達期障害 58%、中途障害 42%であった。発達期では CP や染色体異常が多く、中途障害では脳梗塞後遺症やパーキンソン病が多かった。診療の転帰の状況を図 1 に示した。

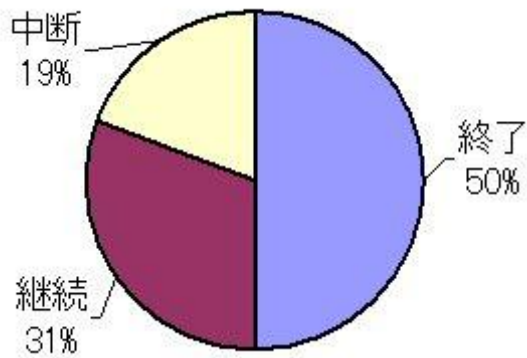


図1 診療の転帰

中途障害の高齢者では体調の悪化による治療の中断が多くみられた。

### 考 察

現在のところ発達期障害者の受診が多く、当センターでは成長の段階に応じた直接訓練が行なわれていることが多い。当地区でも高齢者人口は増加傾向にあり、受診までに到らなくても相談件数は増加している。そのため、今後は発達期障害者よりも中途障害者の当センター受診者数が増えるものと思われる。

### 結 論

摂食嚥下機能訓練外来が開設されてまだ5年しか経っていないが、月に1度の頻度でしか外来を開けず、1回当たりの診療時間がかかることや訓練が長期にわたることなどにより潜在的な需要はあるだろうが受診者数は限定されてしまう傾向にある。保険点数的にも不採算なため事業を拡大していくにも制約がある。そのため今後はビデオと介助者からの直接の聞き取り調査を行い、場合によっては高次医療機関でのVF、VE検査まで行ない、当センターでは診断・訓練プログラムの作成まで行う。その後、在宅・施設で介助者や施設職員に能力に応じたトレーニングを行なってもらえるようにすることが必要であるし、そのための継続的な研修会等が必要であると考えられた。特に、高齢者においては全身的機能が減退していく中で直接訓練と間接訓練を組み合わせ、如何に摂食嚥下機能を維持・向上させていくかが課題である。

